

■ 1. 環境省の強みは「日本政府におけるイノベーションを象徴する立ち位置」なのではないか？

新経済連盟 理事として各省庁とやり取りをさせて頂いている中で、環境省の強みは「日本社会において既得権益とぶつからない形で、新しい価値を提供している」ことなのではないか、と考える。

新経済連盟 500 社の会員企業の多くは、社会のイノベーションに取り組んでいる企業だが、既得権益者との調整に課題がありイノベーションが進まない業界が多々あると感じている。そのような中で環境省において実現された萌えキャラ「君野イマ」「君野ミライ」は、国民と一緒に創るという「共創」の事例として民放各社でニュースとなり、インターネット上の Twitter や Facebook において国民が自分たちの意志で「環境省って MOE (萌え) だったんだ」「環境省始まったな (※オタクの世界での誉め言葉)」と数多くの投稿を行い、環境省の存在や COOL CHOICE の取り組みがインターネットを通じて知られることとなった。

これらは「お金を払って広告して国民に一方的に伝える」という 20 世紀のコミュニケーションから、「環境省と国民が一緒になってモノづくりをしていく」という 21 世紀の双方向コミュニケーションへ移行することに成功した事例ではないかと感じています。また、萌えキャラにはスキャンダルが無いというこぼれ話も伺っており、今後の省庁におけるイメージキャラクターの先駆者的な流れを創ったと言えるかもしれません。

そういう意味では、環境省の強みは、「新しいことを仕掛けても既得権益の邪魔になったり嫉妬を買ったりしないで、政府におけるイノベーションを率先する立ち位置を取れること」なのではないか？と勘案した次第です。そう考えると、もっともっと新しいアイデアを実践していくことで、環境省が、例えば「日本一働くことが楽しい省庁」となり、国民が憧れる職場にしていくことができるのではないかと想像しています。

■ 2. 今後、環境省が仕掛ける「社会の新しい流れ」のアイデア

・コンセプト案：「テクノロジーで新しいマナーを、それが COOL CHOICE !」

1. 「脱クールビズ宣言！」 ～クールビズはもう卒業、もっと楽にサステイナブルな社会を創ろう！

クールビズってもう古い。猛暑にスーツのジャケットパンツが暑い。Tシャツ短パンでも良いのでは？

※小学校の水筒禁止、熱中症での死亡事故などから、国民感情としては旧来の慣習を変えられない大人に嫌気がさしている。そこで率先してルールをチェンジしていけると国民の大きな共感が得られると思います。

※熱帯地域のシンガポールやジャカルタでは当たり前前にTシャツ短パンで仕事をしている。平均温度の事実を調べていくと、日本ももう熱帯地域なのではないか？

2. 『まずはご挨拶』訪問禁止令、むしろ移動しないのが一番 COOL CHOICE !」

成熟市場、デフレ経済の中で、いまだに「まずはご挨拶に」でとりあえず訪問することがもはやコスト高に感じている人は増えてきているように思います。エコな取引を心がける意味でも、Skype やオンラインツールを使っただけの面談を提案していても良いのではないかと。

例：ITが進んでいるサンフランシスコでは、隣駅ぐらいでも会わずに Skype で面談したりする。急にミーティングしたければ、スマホの動画通信で 5 分、10 分アップデートするのも気軽にしている。失礼だから、礼儀だから、で 1 時間のアポイント+往復 30 分×2 で 2 時間かける日本とでは効率面で大きな違いがあると考え。1 件 30 分で完結するミーティングを重ねるチームと移動込みで 1 件 2 時間かかるミーティングを重ねるチームとどちらが成果を上げやすいだろうか？一目瞭然ではないか。
→会議スロット 1 時間禁止運動、議員の時間は 15 分単位なのになぜ 1 時間なのだろうか？
15 分、30 分で効率的に！自然とオンラインが増えてエコ！

3. MOE キャラクターの次は、「MOE Tuber！（バーチャルユーチューバー、VTuber）」だ！

「君野イマ」「君野ミライ」が、次にバーチャルユーチューバーになるのはどうだろうか。

バーチャルユーチューバーは、3Dで動くキャラクターで実際にはモーションピクチャーと呼ばれる技術で実際の人間が動かしている。だが、実際にはほとんどの場合、裏側で動いているのはおじさんで、おじさんだからこそ、おじさんが萌えるポイントがわかるので、あざとい演技ができる。ボイスチェンジャーで、かわいいい声も自在に出せる。例：キズナアイはチャンネル登録数 240 万人、視聴回数 1.4 億回

仮に、君野イマが VTuber となり、中に入っている人が実は大臣でした、副大臣でした、あるいは環境省の職員でしたとなれば、、、必ずバズることは間違いないです。先日もディズニーランドで着ぐるみを着ている人が労働環境の改善を唱え訴えていることがニュースになりました。VTuber に熱中症は存在しません。エコでサステイナブルだと思います。

お金でなんらかの発注をしてとりあえずポスターを作る、Instagram のアカウントを運用する、では、もはや国民にとって既視感に満ちていて見向きもされない時代です。

その時代だからこそ、環境省が率先して国民に親しみやすい、愛されるアクションをしていくことができれば、省庁の未来も変わりますし、引いては政府全体として国民がワクワクするアクションを取りやすくなっていくのではないのでしょうか。

■ 3. 最後に：21 世紀における「国民がワクワクする新しい省庁のカタチ」を！

少子高齢化、労働人口の減少、デフレ経済の中で、20 世紀に作られたルールに沿って慣習を踏襲し続けても誰も一人一人の人生を保証できない時代になってきており、国民は既存の押し付けられる慣習に飽き飽きしています。

20 世紀は大企業・終身雇用で未来が保証されているような印象だったからこそ未来のために今を我慢することできた。けれども、21 世紀は未来が不確実なものであることがコンセンサスとなっており、国民は今という時間を楽しむ人に共感するようにシフトしてきています。

だからこそ、環境省が「今が一番楽しんでいる省庁」になれば、国民はワクワクしてみんな賛同してくれると確信しています。